

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500329
法人名	有限会社 萩の台
事業所名	グループホーム・カミングケアステーション
所在地	愛媛県新居浜市政枝町2丁目3番32号
自己評価作成日	平成28年8月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年8月30日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

居室に閉じこもってしまわないように、居室を出ると直ぐにフロアになっており、広い空間で他の入居者の方々と会話が弾み一緒に過ごす時間が持てるようになっていきます。また、これまでにご使用されていた日常生活用品などを持って来られて出来るだけ在宅での生活環境に近い状態で過ごせるよう配慮しています。建物の南側には、農園と花壇があり、スタッフと共に野菜や花作りに取り組んだり、収穫物を調理に使い出来る範囲で調理に参加できるようにしています。また、収穫物をご近所へ一緒にお裾分けに出かけたり、近所にある子育て支援の親子たちとの交流や地域の行事に参加させて頂いています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

1階ユニットには、南にテラスがあり、事業所の菜園が見渡せ、利用者は日向ぼっこをしたり、菜園の様子を見に出たりしている。菜園は、利用者や近所の方、家族にアドバイスをもらいながら、男性職員が中心となり世話をしている。  
 家族の来訪時、居室で利用者と一緒にゆっくり過ごしてもらえるように、お茶やおやつでもなしている。会話が弾むように、居室には、A4サイズに写真を印刷したファイルを置いている。ご家族宛に年賀状や暑中見舞いを出せるよう支援しており、運営推進会議メンバーに絵手紙の指導に来てもらえるようお願いしている。  
 職員の気付きや改善したいこと等があれば、スタッフ会時に職員全員で話し合っている。又、ストレスマネジメントの一環で、年1回、職員向けに「笑いの落語」を開催しており、「笑った後は血圧が下がる」ことを実際に体験した。レクリエーション等を行い、職員も一緒に楽しむことで、利用者の笑顔を引き出せるよう取り組んでいる。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム・カミングケアステーション

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏名 藤田 千登世

評価完了日 28 年 8 月 10 日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価)  事業所内の意識付けのため掲示し、研修時などに定期的に振り返りを行うように取り組んでいる。	
			(外部評価)  「家庭により近い環境の中で自分らしさを大切にたくさんの笑顔と自信をもって生活できる場を提供します。」と理念をつくり、居間や相談室等に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)  地域の行事(運動会・春、夏祭り・文化祭等)や自治会の行事(総会・廃品回収・出前講座・防災訓練等)に参加をしている。また、自菜園で収穫した野菜をご近所にお裾分けさせていただいている。三味線やボランティアの方々、デイサービス利用者の方、サービス付き高齢者向け住宅の入居者の方、子育て支援の利用親子との交流会などを行っている。	
			(外部評価)  地域行事や自治会行事があり、毎年参加することで地域の顔見知りが増えている。又、事業所主催の芋炊きや餅つき、夏祭り時には、チラシを近所に配って誘っている。行事時には、地域の方等、たくさんのボランティアの協力があり、法人の子育て支援事業「キッズ政枝」の親子も多数参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)  見学希望者は随時受け入れを行い、地域の方々にも施設内外を見学して頂き、芋炊き会などで開放し見学をしてもらえるように努めている。地域との避難訓練や地域の救命救急の講習等に参加している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>奇数月の第3水曜日に開催している。活動報告や避難訓練や緊急時の対応等について情報交換等を行っている。ご利用者手作りのおやつをお出しし、普段食べている食事や生活の様子等写真綴りで見て頂いている。また、家族の意向や意見なども発表している。意見を頂いた事項については管理者会で検討し、スタッフへ申し送っている。利用者の方、役員等出席している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>会議は、隣接する法人事業所で行っており、公民館館長、社会福祉協議会支部長、民生委員、市職員、利用者の参加がある。会議では、事業所の現状や利用者の暮らしの様子、研修内容、行事等について、写真を活用して報告している。家族は、2家族が代表として参加してくれるようになっているが、都合等があり参加につなげていない。</p>	<p>事業所を利用する立場にある家族が参加できるような日時等にも工夫してみてもどうか。利用する側にある家族からの意見や感想も聞けるように、工夫してほしい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>市の担当者が推進会議に参加があり、情報交換を行うように努めている。制度についての不明な点など、その都度確認させて頂いている。市へも相談に出向いている。市の介護相談員の受け入れを偶数月の第2水曜日に行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>餅つきの行事の際には、市の職員の協力があり、愛媛のゆるキャラみきゃんが来てくれた。参加者はたいへん喜んだようだ。</p>	<p></p>
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>玄関の施錠は夜間のみ。身体拘束は行っていないが、言葉や抗精神薬での拘束の危険や防止を研修や勉強会などで行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>調査訪問時、玄関の自動ドアを開放しており、居間や居室の窓は網戸にしていた。職員は、法人内での研修や市社協が主催する「介護現場の為の高齢者虐待防止教育システム」の外部研修を受講している。</p>	<p></p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  虐待防止法について、職員研修を実施して、定期的に学ぶ機会を設けている。事業所外研修にも参加している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  現在制度を利用している利用者はいない。活用必要な利用者に備え、制度活用ができるように系列事業所より実践を伝えてもらい学習している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  契約時に重要事項を十分に説明するように努めている。家族等の不安や疑問点にはその都度、説明を行い理解、納得していただけるように配慮している。誰でもが見れるように、玄関にファイルで置いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  家族の面会時などには意見や要望等を個別に確認するように努めている。家族会を開催し意見交換を行い、昼食をご利用者と共に食べて頂いた。運営推進会への参加も呼びかけているが、仕事などで都合がつきにくいとのことだった。  (外部評価)  年1回、2月に家族会を開催しており、ほぼ全員の家族が参加している。日々の暮らしの様子を写真等で報告して意見交換を行い、その後で事業所で作った食事を食べながら交流している。地域等のボランティアが増える一方で、家族は安心して任せている様子がうかがえ、事業所では家族の協力が減ってきていると感じている。	今後さらに、家族が食事づくり、散歩、外出、行事等、事業所での活動に参加できるように、場面や機会作りに工夫してみたい。



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) スタッフ会や朝の引き継ぎ時等、その中で提案された意見や要望、改善点についてを反映できるようにリーダー会等で議論して回覧などで周知している。	
			(外部評価) 職員の気付きや改善したいこと等があれば、スタッフ会時に職員全員で話し合っている。又、ストレスマネジメントの一環で、年1回、職員向けに「笑いの落語」を開催しており、「笑った後は血圧が下がる」ことを実際に体験した。レクリエーション等を行い、職員も一緒に楽しむことで、利用者の笑顔を引き出せるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 毎日事業所へ出勤し、一人ひとりとの関わりを大切にしている。働きやすい職場作りに努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内の研修や職場外の研修には積極的に参加するようにしている。認知症の研修への参加を勧めている。研修で学んだ事、資料等を回覧したり、スタッフ会等で職員に伝える機会を設けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会主催の研修や地域密着型部会に参加し、他事業所との交流や勉強の機会を頂いている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) その方の居室にて、個別に会話や傾聴する機会を多く持ち、ご本人の好きな食べ物や得意な事、困っている事、不安なこと要望等の確認を行って、信頼関係を築き、ご本人をよく理解できるように努め、入居による環境変化からくるストレスを軽減できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の訪問時に家族等の困っている事、不安なことや要望等を聞き、確認している。また、事前に見学に来ていただき、上記のような確認を行い共に支援を行っていきけるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人やご家族と話し合い、状態や状況を把握しながら、必要と思われる支援を見極め、ニーズに応じて他のサービス利用(訪問美容や報恩歯科等)も検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 生活の中で利用者が出来る事はなるべく行えるように残存能力維持や向上ができるよう努め支援している。例えば調理の下ごしらえや、食器の片付け、シーツ交換、洗濯干しや野菜の収穫、買物等、出来る方はスタッフと共に行動する機会を多く設けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族には、生活状況の事や現状の様子や健康状態などを面会時や電話などでお伝えするようにしている。月に1度、様子を報告する文章をお渡ししている。また、個別ファイルに写真を保存し、家族間で会話が弾むように配慮させて頂いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの場との関係が切れてしまっている状態の方が多 いが、地域の行事や祭りへの参加など生活の中で行っていたことを取り入れるよう努めている。また、お抹茶をたてたり、菜園作りなど自宅でされていたことを行える機会を設けている。家族会等で馴染みの方の面会においてでもらえるよう声かけを行っている。 (外部評価) 家族の来訪時、居室で利用者と一緒にゆっくり過ごしてもらえるように、お茶やおやつでもてなしている。会話が弾むようにと、居室には、A4サイズに写真を印刷したファイルを置いている。ご家族宛に年賀状や暑中見舞いを出せるよう支援しており、運営推進会議メンバーに絵手紙の指導に来てもらえるようお願いしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が生活の中で共に作業が出来たり、共通の時間がもてるように働きかけている。また、利用者間がトラブルにならない様職員が間に入りながら対応している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用者が入院した場合は、定期的にお見舞いに行っている。サービス終了後も必要に応じて相談や支援に努めている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 個々に話しを聞き、なるべく一人ひとりの思いを取り入れるように努めている。また、日常の何気ない会話の中からくみ取れるように努めている。 (外部評価) 前回の外部評価実施後から「生活記録表」に利用者の発した言葉や様子を記録できるよう取り組んでおり、「口の中が乾く。痛い」等の訴えや、お茶を飲んだ後の「美味しかった。ありがとう」という言葉が記入されていた。職員は、記録からの情報をもとに、「どうしたら利用者にとって良いのか」スタッフ会やカンファレンスで検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者や家族との日々の雑談や会話の中から今までの生活状況・環境を聞きとるように努めている。回想療法時等に生活歴など聞きとれる機会を設けている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの現状を共有できるよう常に言葉かけを行いながら、一人ひとりの状態に合わせた対応ができるよう心掛けている。生活記録などを元に引き継ぎや報告を行っている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>スタッフ会や日々の朝礼、カンファレンスで意見を出し合い介護計画に反映していけるように努めている。家族との話し合いの中でも家族の要望を聞き入れるよう努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>家族の来訪時に「担当者会議」を行ったり、遠方の家族には、事前に電話で意見や希望を聞いたりして介護計画に反映している。必要時には、医師にも担当者会議に出席してもらい、意見を計画に反映している。実施状況は、毎日、「生活記録表」に記入しており、モニタリングは、毎月担当職員がまとめ、6ヶ月ごとの見直しにつなげている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日々の様子を記録するだけに終わらず、一人ひとりの状態を把握し気づいたことを、緊急性があると思うことについては、即話し合うことで情報を共有し、介護計画の見直しをしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>多機能にわたって支援していくためには、事業所内だけでなく、協力者や利用者家族との意見交換を多くしながら取り組んでいきたいと思う。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>一人ひとりが活用可能な地域資源を把握し、本人主体に活用できるよう支援していきたい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) かかりつけ医から適切な医療が受けられるように情報提供を行い支援している。また、かかりつけ医からの情報交換から医療的観察事項・介護上の注意など助言を求めている。</p> <p>(外部評価) 第1、3木曜日にかかりつけ医の往診がある。体調が優れない方については、FAXでバイタルや利用者の様子を送信すると、医師が対応してくれる。救急搬送が必要な場合、スムーズに行えるように、かかりつけ医が搬送先の医師へ連絡してくれている。専門医への受診は家族が支援するが、事業所で「近況報告書」を用意し、持参してもらっている。必要時には職員も同行している。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 介護職員は日々の状態把握や様子観察を行い、異常の早期発見・早期対処を心がけている。異常の際は看護職員と情報を共有し、家族や協力医に報告・相談のもと対応している。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 利用者の入院時には、情報提供や受け入れ状況を伝えている。退院時には、情報提供をして頂き受け入れに対応している。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 重度化された入居者には、対応や方向性についてその都度直接会ったり電話で細かく話し合い、異変時には早急に受診体制をとるように努めている。終末期ケアについては、事例の経験を参考に協力医、家族と密に連絡を行い、その都度細かく確認を行い連携が取れるようにしている。</p> <p>(外部評価) 昨年、初めて看取りを支援した。家族は仕事を休み数日付き添われ、事業所では居室に家族用のベッドや椅子、食事を用意して家族をサポートした。支援後は、職員に意見を聞き、次に活かす取り組みを行った。現在3名の方が終末期を過ごしており、家族、職員、医師で話し合う場をその都度設け、家族の希望に沿った支援に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)  応急手当や初期対応の実践力向上については、スタッフ会等において行っている。今以上の対応能力を身につけていくために、定期的に勉強会や講習などに参加している。看護師を中心に実践力を身につけていきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)  避難訓練は毎月1回実施しており、日常により近い状況で行っている。年に2回消防署合同で訓練を行い、地域の方や隣接の施設やご家族に参加を呼び掛けている。また、地域の防災訓練にも参加している。  (外部評価)  事業所独自で、不審者侵入・火災・地震等の想定で毎月訓練を実施している。又、年2回、消防署立ち合いのもと、火災訓練を地域住民やキッズ政枝と合同で実施している。訓練時には、2階ユニットの利用者に椅子に座ってもらい、職員2名で非常階段から降ろす訓練を行った。消防署の方からは「重度の利用者は1階の居室がいいですよ」とアドバイスがあり、家族会で話し合っている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)  排泄時・入浴時等は個別で行いプライバシーを守り、人格を損ねないような言葉かけを行うように意識しているが、今後も尊重していくように心掛けていく。  (外部評価)  施設長は「利用者に関わる時には利用者の目線に合わせ、顔をみながら対応するように」と職員に指導している。利用者同士で言い合いになることもあるが、二人で一緒にいるシーンが多いことから、席を離れたりするのではなく、見守りしながら必要時に間に入って対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)  利用者自身の言葉や思いをくみ取れるように信頼関係を築いていけるよう努めている。また、自己決定しやすい様に、具体的な選択肢を伝えるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々のペースに合わせて生活できるよう努めているが、個々の心身の健康状態などを考慮しながら、職員の都合に合わせて生活を過ごさないように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人・家族の希望で散髪の段取りを行ったり、外出時にはお化粧を促したり、髭剃りの声かけを行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出来る事を中心に、共に調理を行ったり、自菜園で作った野菜を収穫しその日のメニューに取り込んだりしている。また、メニューもご利用者に聞きながら決めたり、行事食も大切にしている。自分の誕生日には食べたいメニューを本人や家族と考え、希望のおやつも提供させていただいている。	
			(外部評価) パン食を好む方がおり、2日に1回、朝食に事業所でパンを焼いている。食事は、系列施設の食事を食べ比べて、意見交換する機会を設けている。利用者のできることをお願いして行えるよう支援しており、調査訪問時は、利用者がホットプレートでチャーハンを作ったり、台拭きや食器拭き等を行っている場面が見られた。食前の口腔体操や食後の歯磨きを行えるよう支援している。口腔内の乾きや痛みの訴えのある方には、ドライマウス予防で口腔マッサージができる綿棒を使用し、口腔ケアにも取り組んでおり、少し改善され訴えが減少している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量・水分量を確認しながら毎食記録を行っている。栄養のバランスや希望を取り入れながら献立をたてている。また、医師や看護師や家族とも話し合っ、個々の嚥下状態により、刻みやミキサー食に対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、促し・確認・記録を行い口腔ケアを行っている。また、歯科受診の必要時には家族に伝え受診の段取りを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	車椅子使用の方も日中は出来る限りトイレで排泄が行えるよう支援している。また、排泄チェック表の記録をもとにトイレ誘導を行っている。	
			(外部評価)		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	一日に一回は食事にヨーグルトをつけたり、10時には野菜や果物の手作りジュースをお出ししたり、水分摂取量も記録をつけ注意している。腹部マッサージやホットパック・腹式呼吸などの体操なども取り入れている。	
			(外部評価)		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	本人の希望に沿うように対応し、入浴剤や柑橘類の湯など楽しんでもらっている。体調に合わせてシャワー浴や清拭を行っている。入浴されない日は、足浴を行っている。	
			(外部評価)		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	入眠時・起床時間は決めておらず、個々の希望に合わせて対応している。日中も休息したい方は、自由に休んでもらっている。	
			(外部評価)		



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の情報はファイルに綴り、職員がいつでも確認できるようにしている。心身の変化時には家族へ相談をし、受診や相談を行い薬の見直しをしてもらっている。また、薬の変更時には副作用などの申し送り、状態観察を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々に合わせた楽しみや役割が持てるように努めている。カラオケの機械を取り入れたり、皆さんのお茶菓子を買物してきたりなどの支援を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個々の希望に合わせた外出は予定を立てて、職員の勤務状況により、可能な限り対応している。花見や地域の行事参加も地域の方たちやボランティアの協力を得ながら対応している。	
			(外部評価) 近所のスーパーやドラッグストア等にお菓子や日用品を買いに出かけたり、季節ごとにお花を見に外出したりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個人で所有している方も数名おられ、飲み物やおやつ等を購入されいている。ほとんどの方が家族の希望で所持しておらず、家族が管理をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話については、本人の希望時には使用できるように配慮している。家族に年賀状などを書いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)  自宅で使用していたものや馴染みの物を使用できるよう配慮している。共有スペースには季節の花や季節の物を飾りつけしている。掲示板には、共に制作し展示している。	
			(外部評価)  2階建ての建物で、南面の大きい窓と2階ユニットには天窗があり、日中はカーテンで日射しを調節している。1階ユニットには、南にテラスがあり、事業所の菜園が見渡せ、利用者は日向ぼっこをしたり、菜園の様子を見に出たりしている。菜園は、利用者や近所の方、家族にアドバイスをもらいながら、男性職員が中心となり世話をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)  それぞれの空間に椅子や畳を配置し、くつろげ自由に雑談を楽しめるような環境づくりに配慮している。	
			(外部評価)	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)  自宅で使っていたものや馴染みの物を使用できるように配慮している。安心できる空間づくりを心がけている。	
			(外部評価)  エアコン、壁掛け扇風機、空気清浄機、カーテン、ベッド、クローゼットが備え付けてある。自宅から椅子やテーブル、ダンス等を持ち込んでいる方がおり、利用者や家族と相談しながら配置している。工作等が好きな利用者は、材料や道具等を自分が使いやすいようにクローゼットの中に整理していた。居室を間違えることがある利用者には、入口に顔写真を貼っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)  アセスメントに基づき利用者の力を引き出して安全生活が送れるようにしていきたい。	
			(外部評価)	